

令和6年2月7日

「むらの大学」学生による住民インタビュー小冊子とアーカイブ

全学類の1年生を対象とする授業「むらの大学」では、原発事故によって避難を余儀なくされた地域（川内村、南相馬市小高区、大熊町）へのフィールドワークを実施しています。今年度からは「住民の方へのインタビューとアーカイブ化」をテーマとし、インタビューをまとめた小冊子とWebアーカイブの作成に取り組みました。

■授業「むらの大学」

- ・福島大学全学類の1年生を対象とする基盤教育科目（いわゆる一般教養）。今年度は全5学類から1年生69名が受講。
- ・学生は川内村、南相馬市小高区、大熊町の3地域に分かれ、5月のガイダンスから1月の現地報告会まで活動。何度も現地に足を運んだ。
- ・震災・原発事故からの時間経過に伴い、今年度からは新たに「住民の方へのインタビューとアーカイブ化」をテーマとした。学生4名程度で1人の方へのインタビューを担当。インタビュー、原稿の整理、ご本人への確認と修正などをすべて学生が行った。

■小冊子「学生が聞いた〇〇」

- ・インタビューの一部を抜粋した小冊子を作成。1月末に完成し、インタビュー協力者に贈呈のほか、地域での配布を開始した。
 - 「学生が聞いた川内」5名へのインタビュー収録、全12頁。1000部発行。
 - 「学生が聞いた小高」7名へのインタビュー収録、全16頁。1000部発行。
 - 「学生が聞いた大熊」6名へのインタビュー収録、全16頁。1000部発行。

■Web アーカイブ

- ・インタビュー全文はご本人の確認を経て、福島大学「地域×データ」実践教育推進室のWebページにPDFで順次公開している。

<https://region-data.net.fukushima-u.ac.jp/archive/>

★本小冊子は（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構の「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」の成果物です。記事化の際にはできる限り、同事業名をご紹介頂ければ幸いです。

（お問い合わせ先）

ふくしま未来学事務局

電話：024-503-2014

メール：miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp

第182回定例記者会見

「むらの大学」学生による住民インタビュー 小冊子とアーカイブについて

令和6年2月7日

「地域×データ」実践教育推進室

特任助教 久保田彩乃

「むらの大学」

- ◆全学類の1年生対象
- ◆川内村・大熊町・南相馬市小高区の3地域に分かれ
通年の現地フィールドワークによって地域を学ぶ授業
- ◆**地域住民へのインタビューとそのアーカイブ化**
(昨年度までは「テーマ別調査・活動」)

震災から13年 当時の5歳が18歳に

「伝承なき復興」への危機感

コロナ禍 → 4年ぶりの合宿フィールドワーク

「むらの大学」

◆今年度：全5学類から69名が受講

(各班の学生内訳)

川内：21名

大熊：20名

小高：28名

※授業形式

上記班内でさらに4名前後の小グループに分かれ、1名の住民に対しインタビューを実施。その後の原稿編集・整理・確認作業等も教員の指導の下に学生がすべて行う。

インタビューとアーカイブ活動

5-8月



事前調査・FW

10月



編集作業

11-1月



編集作業

9月



インタビュー

11-12月



確認と追加取材

1月



完成!

小冊子「学生が聞いた〇〇」



- ・「川内」
5名へのインタビュー収録、全12頁
- ・「大熊」
6名へのインタビュー収録、全16頁
- ・「小高」
7名へのインタビュー収録、全16頁

(※各1000部発行、関係者・関係機関等に順次配布)

「全文インタビュー」

Chapter 1
自分は何ができるかを考えて
～小高の名物女将が語るふるさと～

専業主婦 女将 小林 友子さん

何もなくても考えれば楽しめる

小高駅南・専業主婦女将の友子さん。幼い頃から明るく元気なお人柄だったようです。

小林「いいね、例で書きました。まだいって言うけど、もうフンドセル、はーんってやって、別に遊びに行きました。

中学の頃は放課後、よく男子とサッカーやってました。それから私たちの時代、イナゴ取りやっんです。3日くらいかけて1人1キ

バキューやっんで、15年は、まだ調音器の修理で「おだかに、15年ほど、修理しました。会費を解って、いって、やったり、鏡子やったり。考えれば何のくても楽しめることではあるわけですよ。どうやったら楽しめるか、それってすごく面白かったです。幸運なから、みんなでフットボールやったり、あと、花火もやりました。駅前広場にフイカメフあって、日本中から見たので、知り合いに手を振ってました。

小林「例でアーカイブは、歴史から10年たったとめるとか無かったと伝える場所がない。もつこ(小高)は、けいやないですか。そまの言葉、足跡を継がないんです。こっちアーカイブ活動が盛り

友さんは小高専業主婦のものを残そうとい

QRコードから、福島大学「地域×データ」ホームページ内「アーカイブ」
→「全文インタビュー」を順次公開

<https://region-data.net.fukushima-u.ac.jp/archive/>

